



世界自然遺産10周年機に需要創出

ニューカレドニア 10月25日(水)

ジャンマルク・モスラン ニューカレドニア観光局局长(写真左から2人目)

志村理事長を訪問し、「世界3大岩礁地域の一つであるニューカレドニアは、豊かな生態系を残す堡礁や環礁などに囲まれており、観光開発に努めていく方針です。2018年の世界自然遺産10周年を機に、街歩きや語学研修などの需要創出も図りたい」と意欲を示しました。志村理事長からは、「ニューカレドニアに関する最新情報を定期的に提供していただきたい」と応えました。



パース・日本間の交流人口拡大へ

オーストラリア 11月16日(木)

ポール・ババリア 西オーストラリア州 観光・競馬賭博・中小企業・防衛問題・市民権多文化担当大臣(写真中央左)

志村理事長を訪れ、「現在、年間12万人となっているパース・日本間の交流人口を、パース都市圏内で体験できる多様なツアー素材や大自然・野生動物観察などの日帰りツアーを通じて、拡大したい」と説明。志村理事長からは、「BtoBプロモーションと同時にBtoCプロモーションを展開していけば、パースの認知度がさらに高まるでしょう」と話しました。



日本での認知度向上へ努力

ルクセンブルク 11月28日(火)

リッキー・ウォール ルクセンブルク経済省・観光担当局長(写真中央左)

菊間副会長を訪問し、「日本での認知度を高めるため業界セミナーなどを実施しており、フランダースとの連携やツーリズムEXPOジャパンへの出展なども行っていきたい」と説明。菊間副会長は、「アウトバウンド促進協議会で『観光地としての地方の魅力』という視点からBtoBプロモーションを行っており、ルクセンブルクでも首都以外の観光地を積極的にPRしてください」とアドバイスしました。

警備の強化や保安対策を実施

フランス 12月4日(月)

オリバー・ビーヤロン パリ・ムーランルージュ取締役(写真左)

JATA本部を訪問し、「お客様の安心・安全のため、警備の強化や保安対策を実施しており、日本からの需要拡大をに向けて日本へのミッション派遣も検討している。新しいレストランの開設

要人往来

ピョンチャンでの冬季五輪とロシアでのサッカーW杯という大型スポーツイベントが開催される2018年は、海外旅行需要の伸びにも拍車がかかりそうです。各国から日本市場に向けられる視線も熱を帯びてきました。



ダバオは安全面で問題なし

フィリピン 10月20日(金)

ダバオ市観光局のレギナ・ローサ・テスコン局長(写真左)

アル・ラヤン・アレハンドレ ダバオ市観光委員会委員長とともに志村理事長を訪問し、「マニラとセブに次ぐ第3の都市であるダバオはエコリゾートの施設やマリナクティビティーの施設が整備されており、安全面でも問題はありせん」と説明。志村理事長は「ダバオが安全であるという情報を旅行業界や一般のお客様へ積極的に伝えていただきたい」と応じました。



チョコレートを素材に商品化を

フランス 10月23日(月)

ステファン・ドゥヴリュー サン・テティエヌ観光会議局局长(写真右)

志村理事長を訪れ、「サン・テティエヌは『デザインの街』と言われており、現代的な観光素材が豊富です。パイスのチョコレート工場も有名で、今後、工場、ショコラ・アトリエの訪問やチョコレートづくりの体験などを含めた観光商品を提案したい」と表明。志村理事長からは、「パリから高速鉄道で行けるサン・テティエヌを含むツアーの商品化に協力してほしい」と要請しました。



も計画中で、劇場の歴史を説明する施設ツアーなども行いたい」と説明。越智局長からは、「BtoBセミナーでムーランルージュやパリの新しい観光スポットなどを紹介してください」と応えました。